

安倍首相の改憲発言-そのねらいと危険性-

九条の会事務局主催学習会講演 2017.06.20 渡辺 治

はじめに

5月3日、安倍改憲提言の意義-安倍はいきなり切り札を出してきた(資料1)

日本の進路をめぐる正念場がやってきた

なぜ、いま、安倍改憲提言なのか? そのねらいと危険性はどこにあるのか?

1 5・3安倍改憲提言は何を提起したのか-4つの特徴

(1) 2020年という改憲目標の年を設定してきた

「20年を新しい憲法が施行される年にしたい」

2019年「代替わり」、2020年オリンピックに便乗

(2) 改憲の本命が9条にあることを明言

「9条の改正にも正面から取り組んでもらいたい」

改憲が自己目的、なんでもいい、お試し改憲論の誤り

(3) 9条改憲方式で、加憲論を出してきた

「9条については、平和主義の理念はこれからも堅持していく。」

「9条1項、2項をそのまま残し、そして自衛隊の存在を記述する」

「自衛隊を合憲化することが(わたしの世代の)使命ではないか」

加憲論の系譜

(4) 9条と教育無償化のセット論

緊急事態条項も国会で検討

教育無償化

*なぜ、いま、安倍改憲発言なのか?

2 安倍首相は、なぜ改憲の本命を9条だと言ったのか?

(1) 戦後改憲の本命は9条だった

(a) 50年代に1度目の改憲のねらいは全面改正だった

改憲の原動力-アメリカ、アジアの冷戦に日本軍を動員

保守政権、戦前の日本に戻そうとした、憲法9条だけでなく全面改正

しかも国軍創設の合意-軍隊の海外派兵は中心ではなかった

改憲の企てを阻んだ共同の力-60年安保闘争の国民的昂揚で改憲挫折

自民党政治の改憲消極路線への転換、改憲阻止が生んだ政府解釈による自衛隊への厳しい制約

(b) 90年代以降の改憲第2の攻勢は9条改憲、それも軍隊の海外派兵を正当化をめざした(資料2)

冷戦後、世界を股にかけたグローバル企業の活躍できる「世界」

アメリカ、世界の憲兵「ともに血を流せ」と圧力、

政府は、解釈改憲で自衛隊の海外派兵をねらった